

読売新聞 2020年12月12日付

## 障害者雇用創出へ協定

### 枚方市と貸し農園運営企業

障害者の就労を支援しようと、枚方市は、企業向け貸し農園を運営する「エスプールプラス」（東京都）と協定を結んだ。同社は来年度、市内に農園の開設を予定しており、障害者の雇用義務がある企業に農園を貸し出すことを通じて、雇用創出を目指す。

同社は、障害者の雇用義務がある企業などを対象に、関東などの23か所で貸し農園を展開。農園は約300社が利用し、障害者ら計約

1700人が働く。収穫した農作物は、利用企業が従業員向けに販売するケースが多いという。

市が、障害者らが農業に従事することで生きがいを持てる社会づくりを目指す「農福連携」を掲げていることなどが縁で、エスプールプラスが市内に農園を開設することに決まった。

同社は来年度、農園約1ヵ所を開設して利用企業に貸し出し、企業は雇用した障害者に、サポートスタッフ

と一緒に野菜などを栽培してもらおう仕組み。農場では計75人程度の障害者が働く予定で、エスプールプラスが障害者らの求人をを行い、適性を判断した上で、利用企業に紹介する。

協定では、市が福祉関係者や障害者に対し、就農を促す情報提供をすることなどを定めた。エスプールプラスは市内の企業が優先的に農園を利用できるよう努めるなどとする。

市役所での協定の締結式には、伏見隆市長と同社の和田一紀社長が出席。伏見市長は「農業の後継者不足で、農地をどうするかという課題があったが、雇用にもつながると期待している」、和田社長は「地域と



も連携し、障害者の自立や雇用を拡大できるよう、(利用する)企業を集めたい」と話した。

協定を締結後、記念撮影に応じる(右から)和田社長、伏見市長(枚方市で)

※転載許可済み